



夜間開館のお知らせ

毎週水曜日は、夜間開館日です。
夜8時まで開館しています。

アニマル号（移動図書館車）運行日程

9月10日	10:05～11:20	新冠小学校
	11:20～11:35	おうの郷
	12:00～12:15	子ども発達支援センター
16日	12:50～13:15	認定こども園ド・レ・ミ
	15:00～15:30	新冠小学校
	15:35～16:00	町民センター前（児童館）
30日	10:40～10:50	太陽簡易郵便局
	15:00～15:30	新冠小学校
	16:00～16:25	認定こども園ド・レ・ミ
	16:35～16:55	町民センター前（児童館）

※状況により運行が変更・中止となる場合があります

びっくり箱のおはなし会

定例読み聞かせ（毎月第4土曜日開催）

9月26日（土）10:30～

赤ちゃんの絵本の読み聞かせ（毎月第4水曜日開催）

9月23日（水・祝）10:30～

主催 読み聞かせの会「びっくり箱」
場所 図書プラザ おはなしのへや

東野圭吾さん追悼展示

数々の名作を出版され幅広い年代に親しまれていた小説家東野圭吾さんが惜しまれながら7月に逝去されました。『容疑者Xの献身』、『秘密』など、映画やドラマに映像化された作品でも知られる東野さんの作品を集めた展示を行っています。

今一度作品をご覧いただき、東野さんの世界観に浸っていただければと思います。最新作『永遠の記憶』も絶賛予約受付中です。

●問い合わせ先 レ・コード館図書プラザ ☎0146・45・7777

今月の一冊



「プレゼント」

伊坂幸太郎 他 著／新潮社

伊坂幸太郎、江國香織、恩田陸、梨木香歩、町田そのこ、宮部みゆき、米澤穂信。7人の作家が「夏」をテーマに書き下ろした。驚きと切なさ、怖さと美しさ、何よりとびきりの面白さを詰め込んだ、これまで小説を愛してくてくれた人、これから小説の世界に一步踏み出す人へ贈るプレゼントとなる一冊。

新着ガイド

戦国きょうだいの日本史	福田 智弘
うきうき思いつきひとり遠足	たかぎ なおこ
13歳からの戦争学	小川和久
空き家で暮らす	石川 理恵
こどもを支える地域づくり入門	新谷 龍太郎
恐竜とぼく	小林 快次
鼻炎のリセット法	木村 至信
パラコード NEW STYLE BOOK	メルヘンアートスタジオ
すでい！骨膜ダイエット	うちだ ゆうじ
岩崎ファームが教える野菜の食べ方	岩崎ファーム
川がつくった川、人がつくった川	大熊 孝
ねことじいちゃん12	ねこまき
こうやって、僕は戦い続けてきた。	菊池 雄星
こつこつ、オムレツ	太田 忠司
多類婚姻譚	風良 ゆう
明鏡（東京湾臨海署安積班）	今野 敏
虚空蔵の峯	飯嶋 和一
自分らしく生きるということ	曾野 綾子

図書プラザでの避暑対策

各地で猛暑が続く40℃をこえる地域も報道されておりますが、図書プラザではクーリングシェルター（暑さをしのぐ場所）としてもご利用いただけます。体を冷ます、休めることで体力が回復し行動がスムーズになります。熱中症予防にぜひご利用ください。

また、日差しが弱まる時間帯は中庭でお花を見ながらの読書もオススメです。

たくさんのご来館、お待ちしております。

みんなの広場

ぼくとわたしの

夢

新冠小学校
6年生です



ぼくは、プロ野球選手になってホームランを5本は必ず打ちたいです。理由は、みんなに笑顔を届けたいからです。

坂本 大知



私の将来の夢は決まっていますが、これから見つかった時のために勉強をがんばります。

小守 ひすい



僕の将来の夢はプロ野球選手です。もし、なれなくても大好きな野球を続けていきたいです。

佐藤 琉羽来



ぼくの将来の夢は、消防士です。従兄弟が消防士なのでぼくもなりたいです。

柴田 希惟



ふるさと探究 第24回

『浜高江と山高江』

高齢の方と話をすると浜高江^{はまたかえ}と山高江という言葉聞きま^{やまたかえ}す。浜高江には市街地域、山高江は高江地域に相当します。高江の地名を年代的に整理すると明治14年（一八八一）は新冠郡高江村（新冠郡各村戸長役場当時）↓明治22年（一八八九）は新冠郡高江村（高江村外十カ村戸長役場当時）↓大正12年（一九二三）は新冠郡新冠村大字高江村（二級町村制）↓昭和29年（一九五四）は新冠郡新冠村字新冠と字高江に分割（字名改正）しています。

『新冠村勢要覧』の昭和6（11年）の集落別人口には浜高江と山高江が見られます。昭和10年（一九三五）の浜高江には67戸・435人（男278・女157）、山高江には47戸・305人（男164・女141）と記されています。昭和16年（一九四一）になると戦時体制が強化、内務省訓令により浜高江と山高江は各3班に分けられています。

いつから浜・山高江と呼称されたのかは不明です。高江村は広く、人口も多いので行政的にも新冠川を境として集落を分ける必要があったのではないかと思います。（乾 芳宏）



『昭和初期の地図』
山高江が記されています。
当時の国道は、海岸付近を通っていました。

